

# 平成28年度版 現代の書写

## 学習活動の重点化等に資する 年間指導計画参考資料

### 【中学1年】

この資料は、生徒の学びの保障を目的に、教科書の内容から「学校の授業で取り上げることが必要であると考えられる教材・学習活動」と「学校の授業以外の場での学習が可能であると考えられる教材・学習活動」とに区別して、学習活動の重点化の観点から教材ごとの配当時数、主な学習活動などをご提案するものです。地域や学校の状況に応じてご活用ください。

また、年度末段階で指導できなかった内容を次学年に移すなど、次年度以降を見通した教育課程を編成することも考えられます。その際には、引き継ぎを徹底するなど、ご配慮くださいますようお願いいたします。

令和2年7月

三省堂

【本資料での略称】 関:関心・意欲・態度 知:書写についての知識・理解 技:書写についての技能

青の網掛け : 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動

## ■ 1年

単元名	ページ	教材名 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)
1 楷書で書こう	8	[1]文字の整え方を確かめよう  ●文字や文・文章の整え方を理解して書く。	3	1 教科書P8の「泉」を見て、整った読みやすい文字を書くために必要なことを考える。 2 教科書P9を見て、基本点画の種類と筆使いを確かめる。 3 「泉」に含まれる基本点画を確かめる。	関 整った文字を書くことに関心をもっている。 知 整った文字を書くためには三つの留意点があることを理解している。
	9	[2]筆使いを確かめよう		知 九つの点画と筆で書くときの三つのポイントを理解している。 技 九つの点画を、穂先の動きや筆圧に注意し、腕全体を使って書いている。	
	10 ～ 11	[3]点画の組み立て方を確かめよう		1 教科書P10の「生」を見て、整った文字に共通することを考える。 2 毛筆の扱い方(教科書P4～6)と筆使い(P9)を確かめて、「春光」を毛筆で試し書きする。 3 「春光」に含まれる㉠(文字の中心), ㉡(画と画の間隔), ㉢(画の方向)の要素を確かめる。 4 「春光」を練習し、最後にまとめ書きをする。 5 毛筆で確かめた学習課題に注意して、硬筆で「自由」「筆記」等を書く。 6 点画の組み立て方を意識して書けたか振り返る。	0.8 時間  知 整った文字を書くためには、文字の中心・画と画の間隔・画の方向を意識するとよいことを理解している。 技 文字の中心・画と画の間隔・画の方向を意識して、毛筆・硬筆で書いている。
	12 ～ 13	[4]部分の組み立て方を確かめよう	1 教科書P12を見て、部分と部分がどのようにゆずれ合うと、整った文字になるか考える。 2 「若枝」を毛筆で試し書きし、㉠(上下), ㉡(左右)の要素を確かめる。 3 「若」と「枝」で、上下からなる漢字と、左右からなる漢字の整え方を練習する。 4 名前の書き方を、動画を参照して確かめる。 5 「若枝」を練習し、最後にまとめ書きをする。 6 毛筆で確かめた学習課題に注意して、硬筆で「雨→雲」「言→語」「耳→聞」等を書く。 7 部分の組み立て方を意識して書けたか振り返る。	0.8 時間  知 整った文字を書くためには、文字の部分と部分の組み立て方を意識する必要があることを理解している。 技 文字の部分と部分の組み立て方を意識して、毛筆・硬筆で書いている。	
	14 ～ 15	[5]学習のまとめ	1 整った文字を書くために必要なことを、教科書P14～15を見て、硬筆で書いて確かめながら振り返る。	関 学習してきたことを生かして書くようとしている。 知 整った文字を書くための、点画の組み立て方・部分の組み立て方・文字全体の形の整え方を理解している。 技 学習してきたことを確かめながら、硬筆で書いている。	

15	筆順の原則と意義		<p>1 教科書P15を見て、筆順の原則と意義を確かめる。</p> <p>2 気をつけたい筆順の字(18字)について、自分がふだん書いている筆順と対比しながら確かめる。</p>	適宜	<p>関 筆順の意義を理解し、筆順に注意して書こうとしている。</p> <p>知 字形を正しく整え、効率よく書くために決まった筆順があることを理解し、三つの基本的な原則とともに注意すべき筆順の字を確かめている。</p>
16 5 17	漢字のさまざまな書き方・活字と手書き文字		<p>1 教科書P16を見て、標準の字体と異なる六つの例の違いを確認し、硬筆で書いてみる。</p> <p>2 毛筆で「新緑」の二つの例を書いて、どちらが速く書けるか確かめる。</p> <p>3 教科書P17を見て、手書き文字と代表的なフォント数種を比較し、活字と手書き文字の違いを確かめる。</p>	適宜	<p>関 許容体の字形と通常の楷書体の字形の違いに注意して書こうとしている。</p> <p>知 点画の部分の書き方の違いが書きやすさや書く速さに関係することを理解している。</p> <p>技 活字の字形が手書き文字と同じではない場合もあることを書いて確かめている。</p>
18 5 21	[6] 仮名の字形と筆使いを確かめよう		<p>1 ふだんの自分の字で「みち」と書き、字形例と自分の字とを比較し、読みやすい平仮名を書くために気をつけることを考える。</p> <p>2 教科書P19の「よのとひ」を指でなぞり、平仮名の筆使いを確かめる。</p> <p>3 小筆の扱い方を確認し、「いろは歌」を試し書きする。</p> <p>4 「結び」「回転」「曲がり」「折り返し」「そり」の観点で自分が書いた字を見直し、まとめ書きをする。</p> <p>5 教科書P20の「平仮名の発生」を見て、「日本独自」「漢字の簡略化」「平安時代」の三点をおさえる。</p> <p>6 教科書P19の「おはよう」「なやみ」などを硬筆でまとめ書きする。</p> <p>7 平仮名の字形と筆使いを意識して書けたか振り返る。</p>	1 時間	<p>関 ふだん書いている平仮名の字形を見直そうとしている。</p> <p>知 仮名の外形・線の長さ・方向の捉え方について理解している。</p> <p>技 仮名の字形と筆使いを意識して、小筆で「いろは歌」を書いている。</p>
20 5 21	平仮名の発生	3			<p>関 いちばん身近な文字である平仮名の歴史に関心をもっている。</p> <p>知 平仮名は日本独自の文字であることを理解している。</p>
22 5 23	[7] 文や文章の整え方を確かめよう		<p>1 教科書P22の①～③を見て、「読みやすい文の例」と比べて、どこをどのように直せば読みやすくなるか考える。</p> <p>2 ①(文字の大小)、②(字間)、③(行の中心)と行間を意識して「目には青葉～」を硬筆で書く。</p> <p>3 半紙に対する大きさに注意して「夏めく空」を練習し、最後にまとめ書きをする。</p> <p>4 文字の大小・字間・行の中心を意識して書けたか振り返る。</p>		<p>知 漢字と仮名を交えて書くときには、文字の大小・字間・行の中心・行間を意識するとよいことを理解している。</p> <p>技 文字の大小・字間・行の中心・行間を意識して、毛筆・硬筆で書いている。</p>
24 5 25	[8] 学習のまとめ	1	<p>1 教科書P24(一)の課題文を、字形例を見ずに縦書きで書く。</p> <p>2 1で書いた文と字形例とを見比べて、これまでに学習したことが活かされているか振り返る。</p>		<p>関 学習してきたことを生かして書こうとしている。</p> <p>知 整った文字群にするために、漢字と仮名の大きさのバランスを考え、字間と行の中心をそろえて書くことが大切であることを理解している。</p> <p>技 文字の大小・字間・行の中心を意識して、硬筆の縦書きと横書きで漢字仮名混じり文を書いている。</p>
25	横書きの行のそろえ方・数字とアルファベットの書き方		<p>1 教科書P25で横書きの行のそろえ方と、数字とアルファベットの書き方を確かめる。</p> <p>2 (二)の横書きのノート例を硬筆で視写する。</p>	0.6 時間	<p>関 横書きや数字・アルファベットを読みやすく書こうとしている。</p> <p>知 横書きの行のそろえ方・数字とアルファベットの書き方について理解している。</p>

2 生活に生かそう	26 ～ 27	<p>行事の目標を書こう</p> <p>●今まで学習してきたことを生かして書く。</p> <p>※行事が中止・延期になった場合には、年間や中学校生活における目標に置き換えて実施する。</p>	1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個人目標を決める。</li> <li>2 紙と筆記具を決める。</li> <li>3 書き方(特に強調したい文字は何か、配列をどうするか)を決める。</li> <li>4 下書きをし、意見交流する。</li> <li>5 4で交流した内容をもとに修正し、清書をする。</li> <li>6 完成した作品についてグループで感想を交流する。</li> </ol>	0.5 時間	<p><b>関</b> 行事の目標を、これまでに学習してきた知識・技能を生かして、読みやすく書こうとしている。</p> <p><b>技</b> これまでに学習してきた知識・技能を生かして書いている。</p>
	28 ～ 29	<p>新しい書体との出会い</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書P28～29の歌詞を読み、感じたこと(①楽曲について、②歌詞について、③文字について)をまとめる。</li> <li>2 歌詞が楷書で書かれていたら、どのような印象を受けるか考える。</li> <li>3 これらの書体は「行書」といい、これから「行書」を学習していくことを確認する。</li> </ol>	適宜	<p><b>関</b> 新しい書体(行書仮名交じり)で書かれた詩から受けた印象を交流しようとしている。</p> <p><b>知</b> これまで学習してきた書体(楷書と楷書に調和する仮名)とは異なる書体があり、これから学習していくことを理解している。</p>
3 行書で書こう	30	<p>[1]行書の特徴を見つけよう</p> <p>●行書の基本的な特徴を理解して書く。</p>	1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書P30の2種類の「生」を指でなぞり、楷書と行書の違い(字形や速さ)を考える。</li> <li>2 硬筆で「生」を、速さを変えて(3秒→2秒→1秒)書き、自分が書いた「生」がどのように変化したか確かめる。</li> <li>3 教科書P31を見て、行書の特徴5点(丸み・連続・点画の変化・点画の省略・筆順の変化)を確かめる。</li> <li>4 行書の特徴を理解できたか振り返る。</li> </ol>		<p><b>関</b> 速く読みやすく書けるという行書の特徴に関心をもっている。</p> <p><b>知</b> ・行書が、速く読みやすく書くことに適した日常書体であることを理解している。</p> <p>・楷書との字形上の違いを理解している。</p>
	31	<p>行書のいろいろな書き方</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書P31を見て、3種類の「石田美和」の違いを観察する。</li> <li>2 行書は楷書に近いものから草書に近いものまで、表現の幅が広いことを確かめる。</li> </ol>		<p><b>関</b> 行書にはさまざまな書き方があることに関心をもっている。</p> <p><b>知</b> 行書の場合、同じ文字でも書く速さによっていろいろな形になることを理解している。</p>
	32 ～ 35	<p>[2]連続・丸みを確かめながら書こう</p>	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書P32の「二」と「元」を見て、行書には、楷書にはない線が出ている理由や、二つの点画がつながっている理由を考える。</li> <li>2 毛筆で「名作」を試し書きし、教科書P32～33を見て、筆脈の連続・直接連続や、「名」の「口」の丸みについて確かめる。</li> <li>3 「名作」を連続や丸みに注意しながら練習し、最後にまとめ書きをする。</li> <li>4 前時の試し書きとまとめ書きとを比較しながら、自分の学習課題を確かめる。</li> <li>5 自分の学習課題を意識しながら「名作」を練習し、最後にまとめ書きをする。</li> <li>6 筆脈の連続・直接連続や丸みを意識しながら、教科書P33の硬筆例を練習する。</li> <li>7 連続・丸みを理解して書けたか振り返る。</li> </ol>		<p><b>知</b> 行書では、筆記具が最短距離を通るため、点画が連続したり丸みを帯びたりすることを理解している。</p> <p><b>技</b> 行書の「筆脈の連続・直接連続」「丸み」を確かめながら、毛筆・硬筆で書いている。</p>
	36 ～ 37	<p>[3]点画の変化を確かめながら書こう</p>	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書P36の「人」を見て、行書の「払い」の終筆が、はねたり止まったりしている理由を考える。</li> <li>2 毛筆で「永久」を試し書きし、教科書P36を見て、点画の変化(終筆の形の変化)について確かめる。</li> <li>3 「永久」を点画の変化に注意しながら練習し、最後にまとめ書きをする。</li> <li>4 前時の試し書きとまとめ書きとを比較しながら、自分の学習課題を確かめる。</li> <li>5 自分の学習課題を意識しながら「永久」を練習し、最後にまとめ書きをする。</li> <li>6 筆脈の連続・直接連続や丸みを意識しながら、教科書P36の硬筆例を練習する。</li> <li>7 点画の変化を理解して書けたか振り返る。</li> </ol>		<p><b>知</b> 行書では、次の画に速く向かうために、終筆の形が変わるという特徴をもつことを理解している。</p> <p><b>技</b> 行書の点画の変化を確かめながら、毛筆と硬筆で書いている。</p>

	85 ～ 88	書き初め(1年) ●学習してきた知識・技能を生かして書く。	2	1 「輝く生命(楷書)」「日進月歩(行書)」に、これまでに学習した知識・技能がどのように生かされているか確認する。 2 二つの毛筆課題から一つを選択し、毛筆で書く。 3 2で書いた作品について、問題点とその解決方法を確かめる。 4 確認した点をふまえて、毛筆で練習し、まとめ書きをする。 5 これまでに学習したことを確かめながら仕上げることができたか、振り返る。	1 時間	関 「書き初め」の文化的背景に関心をもっている。 知 書き初め用紙に書くときの姿勢や書き進め方を理解している。 技 学習してきた知識・技能を生かして、配列を意識して書いている。
	38	[4]学習のまとめ	1	1 これまでの学習を生かして、教科書P38(一)の硬筆例を練習する。 2 各文字のどこに行書の特徴が現れているか考えながら、(二)の硬筆例を練習する。 3 字形例を見ずに「授業」と書き、書き終えたら字形の特徴を確かめながら振り返る。		関 学習してきたことを生かして書くとしている。 知 行書の「丸み」「連続」「点画の変化」という特徴を理解している。 技 学習してきたことを確かめながら、硬筆で書いている。
	39	文化としての「書く」 —年賀状と書き初め	適宜	1 教科書P39を見て、年賀状や書き初めという伝統的な文化について確かめる。	適宜	関 生活の中で生きている「書く」文化に関心をもっている。 知 日本人の暮らしには、さまざまな書く文化が生きていることを理解している。
4 生活に生かそう	40 ～ 41	本を紹介しよう ●今まで学習してきたことを生かして書く。	1	1 紹介したい本を1冊選び、その本の好きなところを書く。 2 紹介する形式と内容を決める。 3 レイアウト(書体や筆記具、書く方向、配列等)を決める。 4 下書きをし、意見交流する。 5 4で交流した内容をもとに、修正し、清書する。 6 作品をグループで紹介し合い、感想を交流する。	0.3 時間	関 本の紹介という場面に応じて、これまでに学習してきた知識・技能を生かして、読みやすく書くとしている。 技 これまでに学習してきた知識・技能を生かして書いている。
	42	書いたもので交流しよう	適宜	1 「生活に生かそう」で書いた作品を教室や学校に掲示する。 2 グループやクラスで書写の観点で感想を交流する。		関 友達と交流することでより多くの気づきを得ようとしている。 知 自分や友達の文字がどのように変化したか、学習してきた知識をふまえて交流している。

[配当時数] 20 時間

1. 学校の授業で取り上げることが必要であると考えられる教材・学習活動 : 15 時間
2. 学校の授業以外の場で学習が可能であると考えられる教材・学習活動 : 5 時間